

都道府県番号	41
都道府県名	佐賀県

【 】

学校名及び規模

学校名	有明町立有明中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	103	115	119	3	340	

研究の概要

(1) 研究主題

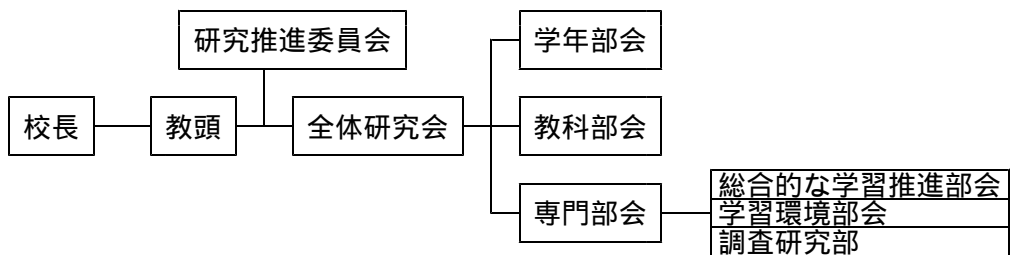
自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する生徒の育成
～基礎基本の定着を高め、生徒のよさを伸ばす学習活動をめざして～

(2) 研究主題設定の趣旨

昨年度は、発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を少人数授業や選択授業を中心に行い、学力向上に努めてきた。今年度は、昨年度まで研究してきた少人数授業や選択授業などの指導方法・指導体制をさらに拡大・充実するとともに、それらの授業の中で扱う教材開発の研究を全教科で行い、生徒一人一人に応じたきめ細かい指導で、基礎・基本の定着を高め、生徒のよさを伸ばす学習活動の研究を深めていきたい。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



平成14年度は、専門部会として授業研究部・選択授業研究部・実態調査研究部の3研究部をもった。しかし、専門部として役割分担を行っても、少人数授業を行う教科担当の負担が大きかった。そこで平成15年度は、教科部会を研究の中心の部会とし、すべての教員が学力向上に取り組むようにした。

(2) 研究の実際

【社会科における取組】

学び方を学ぶための指導過程の工夫

社会科学習で学び方を育てるには、学習者が問題を発見し、追究する過程に着目した表現を行わせ、「問題の設定の仕方」、「仮説の立て方」、「調べ方」、「考察の仕方」などを他の生徒に伝え、相互に討論・批評させる場面を設定することが必要であると考えた。

今回は「地方の政治と自治」の単元で以下のような指導過程を作成した。また、従来の広用紙などを利用した表現方法では、結論に注目しかちだったので、追究過程を伝える方法として、クリップボードを利用した。

指導過程（全9時間）

段階	時配	学習内容	指導上の留意点
1. 地方自治の理解と問題の把握	1	<p>執行機関と地方議会の関係 地方分権、直接請求権など 地方自治の基本的な内容を 理解する。 これからの地方自治の一般 的な問題点を把握する。 有明町に関する個別的問題 を把握する。</p>	<p>有明町役場の組織図を利用 する。 市町村合併についての新聞 記事等を提示する。</p>
2. 調査・観察	1	<p>有明町の特色や活用できる ものは何か調査する。 ・竜王崎古墳群、稲佐神社 福泉禅寺、桜の里、ふれ あい郷、むつごろうカン トリークラブ、干潟、の り、ムツゴロウ、いちご たまねぎ、ぺったんこ祭</p>	<p>参考資料 (町政要覧、有明町ガイドマ ップ、有明町ホームページ など)</p>
3. 仮説の設定と追究計画の立案	1	<p>同じような特色や同じ活用 できるものを考えた生徒ど うしをグルーピングし、班 編成を行う。 班ごとに地域づくりのため の具体的な方法の仮説を立 てる。 「××という理由から を ようにすれば にな り、生き生きとした地域 づくりにつながるであろ う。」</p>	<p>各班の人数がある程度同数 になるようにする。 生徒の自由な発想をもとに 仮説を立てさせるが、根拠 をはっきりさせる。 多面的・多角的視点から考 察させる。(農業、漁業、 商業、福祉、国際、環境、 観光や様々な立場の人々の 視点や利益性、特殊性、将 来性などから考えさせる)</p>
4. 仮説の追究	3	<p>各地の地域づくりの例を調 べる。 地域づくりの具体的な方法 を見直し、新しい地域の理 念をつくる。 追究過程ごとにクリップボ ード(取りあげたもの、理 由、仮説、検証方法、検証 結果、新しい地域の理念の 6枚程度)を作成する。</p>	<p>教科書の活用 ゲストティーチャ-の活用 インターネットの活用 フィールドワークの実施</p>
5. 表現と評価	2	<p>クリップボードを利用し、 追究過程を表現する。 報告会を行い、相互に討論 ・批評する。</p>	<p>第3者に追究過程やその結 論を導き出した根拠などを 分かりやすく説明させる。 学級全体で評価をさせる。</p>
6. 学び方の深まり	1	<p>他の班の発表や追究過程に ついての気づきをまとめる</p>	<p>結論そのものより追究過程 を中心にまとめさせる。</p>

クリアブックの活用

3年生の社会科では、授業の補助資料として毎時間ワークシートを配布してい
る。そしてそのワークシートは、生徒一人一人が持っている40ポケットのクリア
ブックに保管し、学習内容を振り返ったり、取り出して新たに学習内容を書き加え
たりしている。また、このクリアブックには、ワークシート以外の配布した資料、
定期テストや実力テストの問題用紙・解答用紙なども保管させている。このクリア
ブックを見ると1年間の学習内容を振り返ることができるようにした。

定期テストの工夫

3年生の社会科の定期テストは、50分のテスト時間を前半30分、後半20分に分けて実施した。前半は、従来どおりの形式のテストである。後半は、教科書などを持ち込んで行うテストである。資料活用の力をつける方法として取り入れた。実施の仕方は次の通りである。

前半の問題用紙と解答用紙を配布する。

30分後前半の解答用紙を回収する。

回収と同時に後半の問題用紙と解答用紙を配布する。

20分後後半の解答用紙を回収する。

試験監督の教員には、迷惑をかけることになるが、教科書などを持ち込むことで、今まで出題できなかった形式の問題も出題できるようになった。

その他の工夫

3年生の社会科では資料集を購入せず、今までは資料集で調べていたことをインターネットで調べることにした。必要な資料を見つけるには時間はかかるが、どのようにして必要な資料を見つけたかなどを発表させた。

(3) 研究の成果と課題

観点別到達度学力検査(CRT)の結果で、特に優れていた点は以下のとおりである。(Aは十分満足、Bはおおむね満足、Cは努力を必要。観点評定は、興味・関心・態度を除いた評定である。)

【3年生社会科のCRTの結果より】

・得点率

有明中の得点率	74.7	全国の得点率	65.9
---------	------	--------	------

・各評定の人数出現率(%)

評定	1	2	3	4	5
有明中	0	10	13	30	48
全国	5	12	27	30	26

・「資料活用の技能・表現」の観点の人数出現率(%)

段階	C	B	A
有明中	5	13	83
全国	12	18	69

・「社会的事象についての知識・理解」の観点の人数出現率(%)

段階	C	B	A
有明中	3	25	73
全国	20	31	49

課題

C(努力を要する)の段階の生徒を、どのようにしてB(おおむね満足)の段階へ向上させるか。

「社会的な思考・判断」の力を、どのようにして向上させるか。

評価の工夫。

(4) 研究成果の普及の方策

第1回公開授業及び授業研究会

- ・日時：平成15年10月16日(木)
- ・場所：有明町立有明中学校
- ・テーマ：3年生選択授業(選択教科における発展的・補足的な学習の取組)
(教科名・音楽、美術、保健体育、技術、家庭)
- ・対象：県内フロンティアスクール及び事務所管内の小・中学校教員

第2回公開授業及び授業研究会

- ・日時：平成15年11月21日(金)
- ・場所：有明町立有明中学校
- ・テーマ：3年生社会科(学び方を学ぶ指導過程の工夫)
- ・対象：県内フロンティアスクール及び事務所管内の小・中学校教員

フロンティアティ・チャ - の実践発表

- ・日時：平成15年8月19日(火)
- ・場所：ユースピアさが
- ・テーマ：フロンティアスクールとしての学力向上の取組
- ・対象：武雄部教職員宿泊研修者(20名)

白石部教育会研究発表会での実践発表

- ・日時：平成15年12月25日(木)
- ・場所：白石町立白石中学校
- ・テーマ：フロンティアスクールとしての学力向上の取組と理科での実践事例
- ・対象：白石部教育会の小・中学校職員

(5) その他

- 国語・・・少人数授業、ワークシートやカードの工夫
- 数学・・・少人数授業、ワークシートの工夫(選択授業)
- 理科・・・直接体験(「音の高低・大小の分かる楽器作り」)と
間接体験(「コンピューターによる動物カード作成」)の導入
- 英語・・・少人数授業、学習環境の工夫(「ペラペラボード」)
- 美術・・・「色相環づくり」
- 技術・・・「トレー&ティッシュボックス」(選択授業)
- 家庭・・・「食生活を見直そう」(ワークシートの工夫)
- 体育・・・「チューブでアップ・ストライドひろげロープ」(選択授業)

-
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無
-

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

基礎・基本の定着を図るため、教材の作成、提示の工夫、指導方法の工夫等を行っている。知識の習得だけでなく、学び方の育成、学習した内容や資料の活用にも指導の重点をおいている。